「彼を知り、己を知れば、百戦してあやうからず」

校長　駒田　勝

人生には、将来を大きく左右する「岐路（分かれ道）」というものが、何度か訪れます。その一つが高校３年生の「進路決定」の時とも言えます。目標に向け努力した日々が最も大切で、それは人生を変えるものです。

さて、私事で恐縮ですが、私の失敗談を綴りますので、皆さんにとって他山の石として読んでもらいたいと思います。私は、これまでに何度かフルマラソンに参加してきました。どの大会でも、コースの途中に複数の関門が設けられ、予定時間がくれば関門は閉鎖されるためレースを続けることはできません。
これまでに、８回参加して５勝３敗。初めてのフルマラソンでは、事前の走り込みもほとんどなく、スニーカーでの参加に加え、関門閉鎖時間が気になり、途中での栄養補給を無視した、若さに任せての無謀な挑戦でした。36km で関門閉鎖。その後も同じ失敗を繰り返し、３回続けての未完走。「膝には古傷があるし、さすがに完走は無理かな」と勝手な理由付けをし、完走を諦めることにしました。その後、ある職員の言葉がきっかけで、もう一度チャレンジすることになりました。それは、突き放すように言われた「完走は無理や」という言葉でした。自分の弱点を他人に指摘されるほど腹立たしいことはありません。
４回目の挑戦では、「マラソンの入門書」を購入し、シューズの重要性、エネルギー補充の意味等々、マラソンについて研究して大会に臨むことにしました。何よりも驚いたのは、マラソンは事前に走り込んだ距離により、確実にタイムを縮めることのできるスポーツ、いわば「計算できるスポーツ」であるということ。これまでの 150Km そこそこの走り込みを改め、360Km の走り込みを計画し、マラソンシューズを購入、計画的なエネルギー補給等、計算づくの４回目は、５時間 10 分の制限時間ぎりぎりでの初完走。今思えば、「本気のつもり」から、初めて「本気」になって臨んだ大会でした。

「彼を知り、己を知れば、百戦してあやうからず。彼を知らずして、己を知らざれば、戦う毎に必ずあやうし」

中国の古代・春秋時代の武将「孫子」が残した言葉の一つです。上述の私の失敗の連続は、この言葉が身に染みるものです。「彼（マラソン）」を知ることなく、また「己（自分自身）」を知ることなく、挑戦することは無謀の一言です。孫子の言葉は、当たり前のことですが、難しいことです。

皆さんがこれから進むべき道は先が見通せず、心細く不安が多いと思います。この「進路の手引き」は、将来に向け挑戦しようとする皆さんに対して、「彼」と「己」を知るための方向、きっかけを与えてくれるものです。また、本校の先生方による手作りの資料であり、皆さんの先を歩む先輩たちの貴重な情報がまとめられたものです。きっと、強い味方となることでしょう。特に、先輩からのメッセージ「合格体験記」は生きた情報であり、他では得がたい資料です。
「皆さんは、いつ『本気』になれますか？」「それは、今でしょう！」